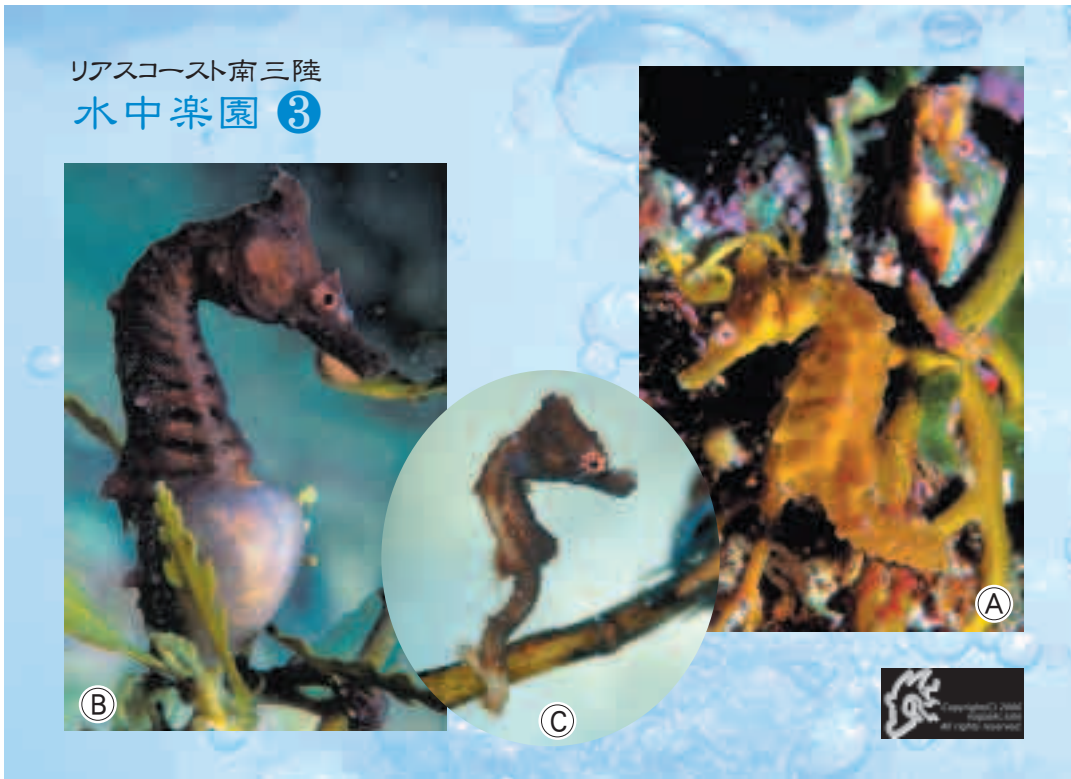


リアスコースト南三陸  
水中楽園 ③



オスが子どもを産むの？  
タツノオトシゴ

ようやく台風シーズンも過ぎ去り秋本番となりました。気温に遅れて水温はなだらかに下がり始めます。そのため、水中はまだ夏の余韻を残しています。

また、この時期には「死滅回遊魚」と呼ばれる魚たちが南からやってきます。台風や黒潮とともに北上し、やがて訪れる厳しい冬を越すことなく死に絶える魚たちが姿を現すのです。彼らは、この季節限定の風物詩なのです。

今回は、そんなトロピカルな南国育ちの魚たちが幅を利かせる一方で、地味に力強く生きている魚を紹介します。写真でお判りのとおり、タツノオトシゴです。

8月下旬から9月上旬にかけて繁殖期を終了した彼らですが、この時期水中では親のタツノオトシゴに混じって、生まれたての子タツゴが観察できます。

この種は、オスのお腹に育児嚢<sup>①</sup>と呼ばれる袋を持ち、メスはその袋の中に卵を産み落とします。その後、オスの袋の中で卵は孵化し、オスのお腹の中から子どもたちは旅立つのです。

ちなみに、タツノオトシゴは安産のお守りとも言われ、お産時に左手に握れば産を軽くするなどと言い伝えがあります。

その場合、オス・メスどちらを持ったほうが良いのだろうか？  
(写真・文 水中カメラマン 佐藤長明)

写真A 産卵を終えたメスのタツノオトシゴ  
写真B 稚魚を放出する寸前のオスのタツノオトシゴ  
写真C 9月に生まれたばかりのタツノオトシゴ

編集後記

▶本紙の発行日、10月1日は南三陸町の満1歳の誕生日。そう思うと、今年の今ごろは、南三陸町ホームページの製作など町合併の準備をしながら、創刊号の編集作業に格闘していたことを思い出します。▶早いもので、あれから1年。私にとっては「あっという間」の1年でしたが、いかがだったでしょうか？▶今後も多くの情報をお届けできるよう頑張りたいと考えていますので、よろしくお願ひします。 担当 佐藤

●日曜当番医

- 10/1 高橋クリニック ☎46-4315(志津川字中瀬町)
- 10/8 本田記念あおいクリニック ☎46-4530(志津川字十日町)
- 10/15 南三陸志津川クリニック ☎47-2777(志津川字塩入)
- 10/22 上田クリニック ☎36-2316(歌津字中山)
- 10/29 鎌田医院 ☎36-2008(歌津字伊里前)
- 11/5 ささはら総合診療科 ☎47-1066(志津川字汐見町)

●第1・第3日曜歯科当番医

- 10/1 米倉歯科医院 ☎42-2630(本吉町津谷松岡)
- 10/15 阿部歯科医院 ☎46-5678(志津川字大森町)
- 11/5 大谷歯科診療所 ☎44-3131(本吉町三島)

※日曜当番医は、変更となることがありますので、あらかじめ電話で確認してください。受診の際は保険証をお持ちください。